

◆ 今週のコメント

- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、7.35(294例)で、4週連続で増加しています。ノロウイルスを原因とした感染性胃腸炎の集団発生が、京都市内でも発生しており、京都市衛生環境研究所に搬入された検体からも、ウイルスを検出しています。第50週(12月第2週)頃にピークを形成することが多く、今後の動向に注意が必要です。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、0.45(18例)で、第44週(11月1日～11月7日)以降、過去5年平均値を大きく上回る状態が続いています。年齢階級別にみると、1歳以下が88.9%(16例)を占めています。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は、1.28(51例)で、先週の約2倍となっています。年齢階級別では、2歳が19例(37.3%)と最も多く、次いで4歳(8例)、1歳(7例)、3歳(6例)の順に多く、1歳～4歳が78.4%を占めています。
- ・ 伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.55(22例)で、本年度で最も多くなっており、第33週(8月16日～8月22日)以降、過去5年平均値を上回る状態が続いています。本疾患は、4～5年ごとの流行周期がみられます。前回の流行(平成18年)から4年以上が経過しており、今後の動向に注意が必要です。

◆ 今週のトピックス:<インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は、0.43(29例)で、先週(0.16, 11例)の2倍以上に増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 五類:劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例(第46週分)【1月以降の累積報告数 2例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.43	29
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.35	294
	② 水痘	1.28	51
	③ 流行性耳下腺炎	0.63	25
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.58	23
	⑤ 伝染性紅斑	0.55	22
眼科	流行性角結膜炎	1.00	10

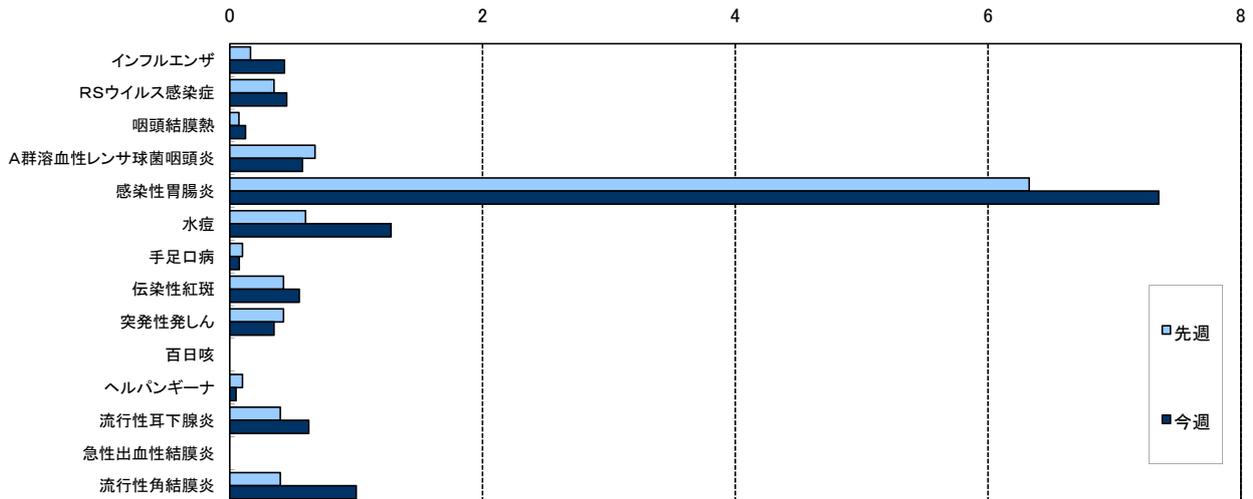
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<インフルエンザ>

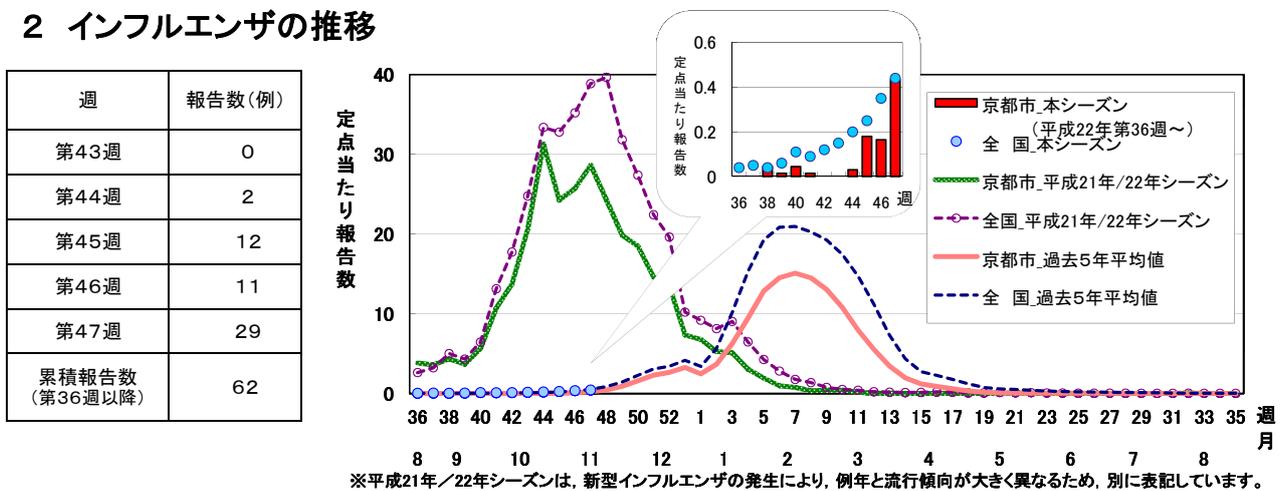
(注) 京都市のデータは、平成22年12月2日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第47週)と先週(第46週)の定点当たり報告数の比較

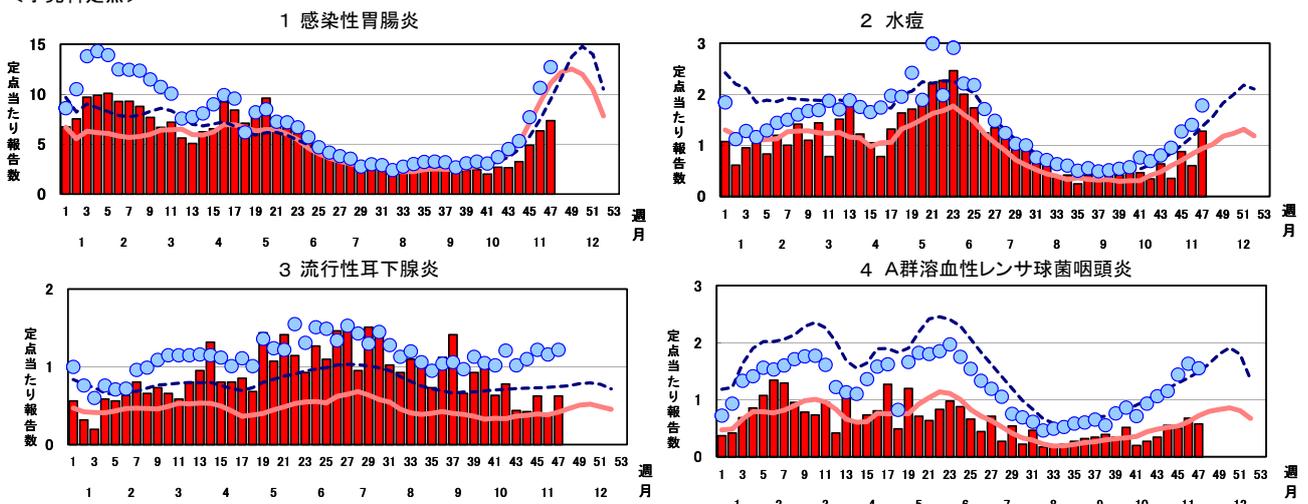


2 インフルエンザの推移

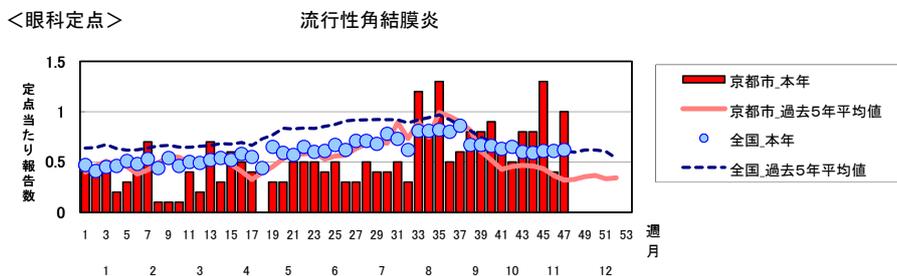


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第47週(11月22日～11月28日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は、0.43(29例)で、先週(0.16, 11例)の2倍以上に増加し、過去5年平均値(平成16～20年値)を上回る報告数となっています。

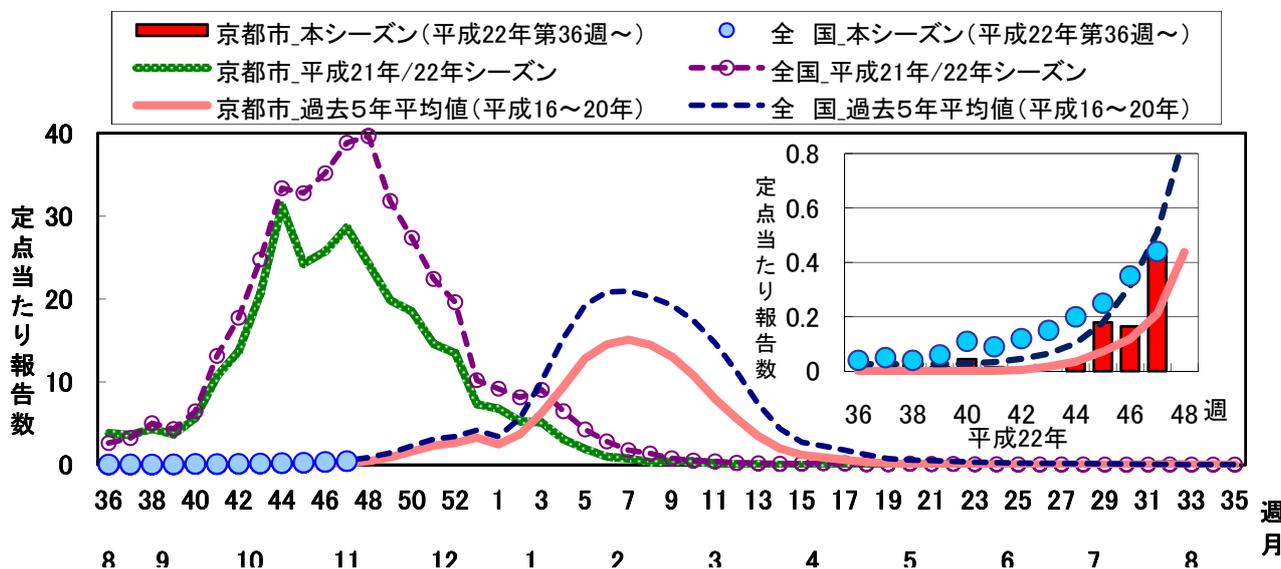
昨シーズン(平成21～22年)は、新型インフルエンザの発生で、例年より早い時期(10月)に流行ピークがみられましたが、本シーズンは、報告数が増加し始めたところです。行政区別の推移では、先週が5行政区からの報告であったのに対し、今週は、北区、山科区、伏見区を除く8行政区からの報告となっており、また、京都市内の教育施設や社会福祉施設等では、集団感染も発生していますので、今後の動向にご注意ください。

年齢階級別では、0～4歳及び5～9歳が各24.1%と最も多くなっています。

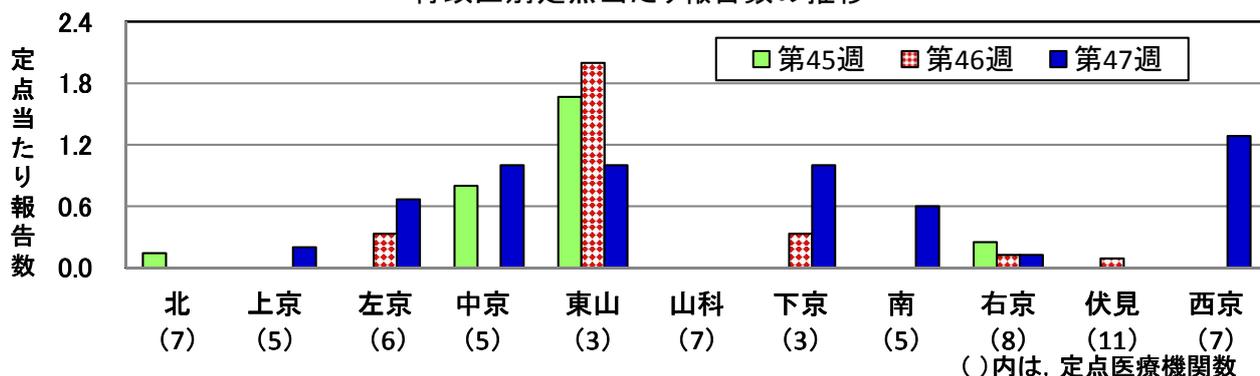
京都市衛生環境研究所では、市内の病原体定点での検体等から、AH3香港型 1株(11月上旬採取)、B型 1株(11月下旬採取)を分離しています。

※インフルエンザの発生状況をホームページに掲載しています。毎週、木曜日に更新しますのでご参照ください。 <http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000091724.html>

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合

